



今年は70歳。肉体的にも精神的にもずいぶんと疲れが感じられるようになってきました。そろそろ引退か？そう思うようになってきました。幸いにも今では光受寺26世の、お寺に対する姿勢に手ごたえが感じられるようになり、安堵の思いもあるのですが、反面、私自身にはまだやり残したことがあるような気がしてならないでいます。今しばらくは人生を振り返りつつ、思いの整理を試みようかと思っていますところです。

思い起こせば住職に就いて30年。どうしたら光受寺が皆さんに親しみの持たれる寺として生まれ変われることができるのだろうか、そのことだけをエネルギー源に寺院経営に携わってきたような気がしています。就任当時には、マンネリ化した寺のイメージを変え、「本来の寺の姿に戻したい」の一心で、関わってきましたが、心砕けるような時が何度もあったことが思い起こされます。しかし、現在では多くのご門徒の皆様の「お蔭さま」に助けられながら、少しずつ寺のイメージも変貌を遂げてきているように実感しています。

「光受寺の門徒でよかったわ」。これはあるご門徒さんからかけられた言葉です。今では心の支えとなっています。光受寺をご縁として、共にお念仏をよるこんで生きられる身になれることを願いつつ、ご縁がご縁となっていく寺づくりに、今少し関わってみようかとも思っています。



あけまして
おめでとう

明けましておめでとうございませう。
 本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



新年のご挨拶

責任役員 T・Y

新年あけましておめでとうございませう。

昨年末の報恩講には多くの方にご参詣たまわり、また門信徒総会におきましても多数のご参加をいただき、年を追うごとに寺に対するご理解を深めていただけるようになりました。誠にありがとうございました。心より御礼を申し上げる次第です。

さて私ども日々何気なく生きていくわけではありますけれども、よくよく考えてみますと、目に見えない大きな力に生かされて生きていくことを感じることがあります。これを他力というのだと理解はしておりますが、口ごころは仏縁に出会いながらも仏縁として受け止めて生きていまいこと現実が、私たちの姿ではないかと思われませう。

「ご本願の働きかけに気づかせていただき、感謝の思いをもって生きる」とは、真宗門徒の願うところではあります。凡夫の身であるが故の悲しさか、なかなか思うようにはなりません。

せめて年に一度の報恩講や、春秋の永代経等にお参りをさせていただき、お話を聞かしていただきながら、わが身を振り返るご縁にしていくことが、報恩感謝の思いに通じていくのではないかと感じます。

皆様のお幸せを心から念じて「ご挨拶」させていただきます。



昨年のライトアップ時の様子です。
きれいでしたよ。

光受寺春の催し

光受寺では毎年梅の四季に合わせて、様々なイベントを開催しています。
ぜひご来寺いただき、お楽しみいただけたら幸いです。

主な催し

観梅展……2月下旬～3月中旬

「つりびな」も庫裏に飾ります。

書画展……3月1日(水)～3月12日(日)

「色鉛筆画」展…… 同 上

T・I氏



本年度、主な行事予定

毎月・第一土曜日

おあさじ「7時半より

学習会」 十九時より二十時半

毎週・金曜日 光受寺茶話会」

十三時より十六時まで

いずれも変更があることをご了承ください。

一月 十四日(土)第二土曜日・おでんパーティー

十七時より

参加自由

参加費五百円

二月下旬～三月中旬

しだれ梅、観梅展開催

三月二十日 春分の日

春季永代経

講師未定

午後・寺族にて

六～七月

境内の紫陽花がきれいに咲く予定です。

九月二十三日 秋分の日

秋季永代経

講師未定

午後・寺族にて

十二月十日(日)

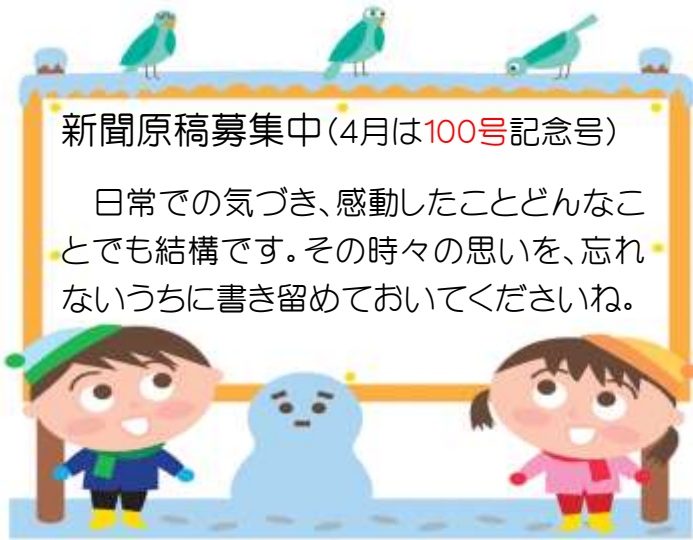
報恩講

講師・倉角 秀悟師

同日

門信徒総会

多くの方にぜひ参加いただけますよう
心よりお待ちしております。



今年こそ、学習会に参加してみませんか。

学習会とは申しますが、知識を身につける会ではないのです。念仏に生きた人々を訪ねながら、ほんとうの幸せ、喜びをいただいていくための歩みの集いなのです。

天往生：長生きをした人がお亡くなりになると、大往生でしたね、と人は言う。往生に大が付くことに不思議を感じてしまうことがある。

往生は往生であつても大も小もないと思つたのだが、これは多くの人が長生きを人生の目標とでもいつものにしてしまつてゐるからであらう。まさに「天往生」は死者に対する最高の賛美の言葉となつてくるのだ。

しかも「死ぬ」ことが「往生」することだと思ひ込んでしまつてゐることからも、そんな言葉が発せられてくるのだらう。かつてあの人は「後生願ひ」だった、とよく聞かされたものであつたが、まさに「平生業成」することが、かつての人たちの人生の目的であつたように思えてくる。生きてゐる今「往生」を願つて生き、往生することが生きてゐる長さよりも大切だと思はれてくるのである。